

まちのうごき	
面積	7.67km ²
(6月1日現在)	(5月中)
世帯数	18,522世帯
人口	53,320人
男	26,154人
女	27,166人
生まれた人	49人
亡くなった人	22人
転入した人	284人
転出した人	201人

広報 向日市

No.601

平成7年(1995年)7月1日

◎発行 向日市役所(京都府向日市寺戸町中野20)
◎編集 秘書広報課 ◎電話 075(931)1111



水稲
明治41年に物集女町の山本新次郎氏は、従来の品種より美味良質で耐病性の強い新品種「旭」を開発し、その優秀性が認められました。現在、向日市では「日本晴」という品種を中心に約90ヘクタールの田で、水稲が栽培されています。

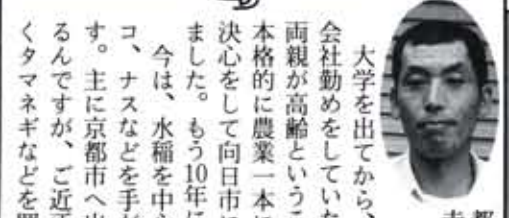
農地からまちに緑を

みなさんは、毎日田んぼや畑のすぐそばを通っていても、農業の現状をご存じの方は案外少ないのではないのでしょうか。

都市化がすすむ私たちのまち向日市でも、耕地面積や農家人口は、徐々に減少してきました。しかし、都市における農地は、単に農業生産だけでなく、自然環境の保全や、防災機能といった面から見ても、公共的役割を持っており、私たちはこれを守っていかねばなりません。

市でも、このような観点から今年度は若手農業後継者の育成をはかるため「(仮称)いきいき農業塾」事業を計画しています。

今回は、向日市での都市農業の現状の一部を紹介しましょう。



都市農業をささえる 寺戸町の農業生産者

築坂 晃さん

大学を出てから、しばらく会社勤めをしていたんですが、両親が高齢ということもあり、本格的に農業一本に取り組み決心をして向日市に帰ってきました。もう10年になります。

今は、水稲を中心にタケノコ、ナスなどを手がけています。主に京都市へ出荷しているんですが、ご近所の方がよくタマネギなどを買いに見え

るんですよ。そんなとき得られる地域とおつきあいは、本当に大切だと思いますね。物を作る喜びといったことを実感として感じています。

都市農業をすすめていくポイントとは、やっぱり地域とのコミュニケーションなんじゃないですか。



なす
昭和の初め頃から栽培が始まり、今日でも市全域で生産される特産地としての地位を維持しています。特に、向日市のなすは、品質が優れていることから市場でも常に高い評価を得ています。



花き
向日市のげんがい菊は、大正時代に鶴冠井町の農家が栽培技術を確立したのが始まりで、現在では食本町と鶴冠井町を中心に栽培される近畿地方唯一の産地になっています。また、近年では花壇苗やポイントセアなどの観花の生産の伸びが目立ってきました。

市内で生産された新鮮な野菜や花壇苗を直売

青空市場

とき 7月15日(土)午前10時～正午

ところ

- ・JA向日市東向日町支所前
- ・向日神社参道上がり口

(品切れになり次第終了します)

主催 各地区農家組合

後援 JA向日市・向日市

林 千賀子さん

「向日市農業みであるき」に参加された 寺戸町の主婦

私が、この向日市に引っ越して来た時は、まだまだ田畑が広がる田園都市といった趣がありました。ところが、近頃は開発も進み農地が随分少なくなってきました。感じていました。

そんな折、市の広報で「向日市農業みであるき」の募集を知りちょっと勉強してみようかなと参加してみました。

向日市の特産品のナスやタケノコは知っていましたが、米の収穫の多いのには、少し驚きましたね。トマトの水耕栽培やハウスの花き栽培、懸崖菊の栽培など、サラリーマン家庭の私にとっては、物珍しいものばかりで農家経営の努力や工夫がうかがえ感心しました。

都市農業の多面的な役割

市内で営まれる都市農業は、単に米や新鮮な野菜などの食料の供給だけでなく、つぎのような重要な役割を果たしています。

(1)環境を保全します
盛夏期は、10アール当たり1日5トン程度の水を稲の葉面から蒸散させています。また同時に田面の水面から1.5トンの水分を蒸発させて、気候緩和と大気浄化を行なっています。

(2)防炎的な役割を果たします
大雨の時に降った雨は、水田に一時貯留され、一定の時間的ずれをもって、ゆっくり河川に流出するため、流水調整に大きな役割を果たしています。10アール当たり1ミリの水深は、1トンの水量に相当します。そのほか、大火を防ぐ防火線としての貴重な空間でもあるのです。



たけのこ
物集女町、寺戸町の丘陵一帯は、昔から孟宗竹林におおわれ、たけのこの栽培が行なわれています。毎年冬に敷きわらをし、その上に土をかぶせます。このように栽培されるたけのこは、品質の良いことで、「乙訓の筍」として全国的に有名です。